

未来技術講習会

遠隔（オンライン）診療 実証事業について

大阪府 河内長野市

かわらなが〜く
ふだんのしあわせ



INDEX

はじめに

河内長野市の概要 _____ P
現状と課題

遠隔診療を選んだ経緯 _____ P

事業について

実証開始までのプロセス _____ P

実証開始にあたってのポイント _____ P

実証開始 _____ P

実証事業の結果 _____ P

結果と展望

今後の展望 _____ P

1

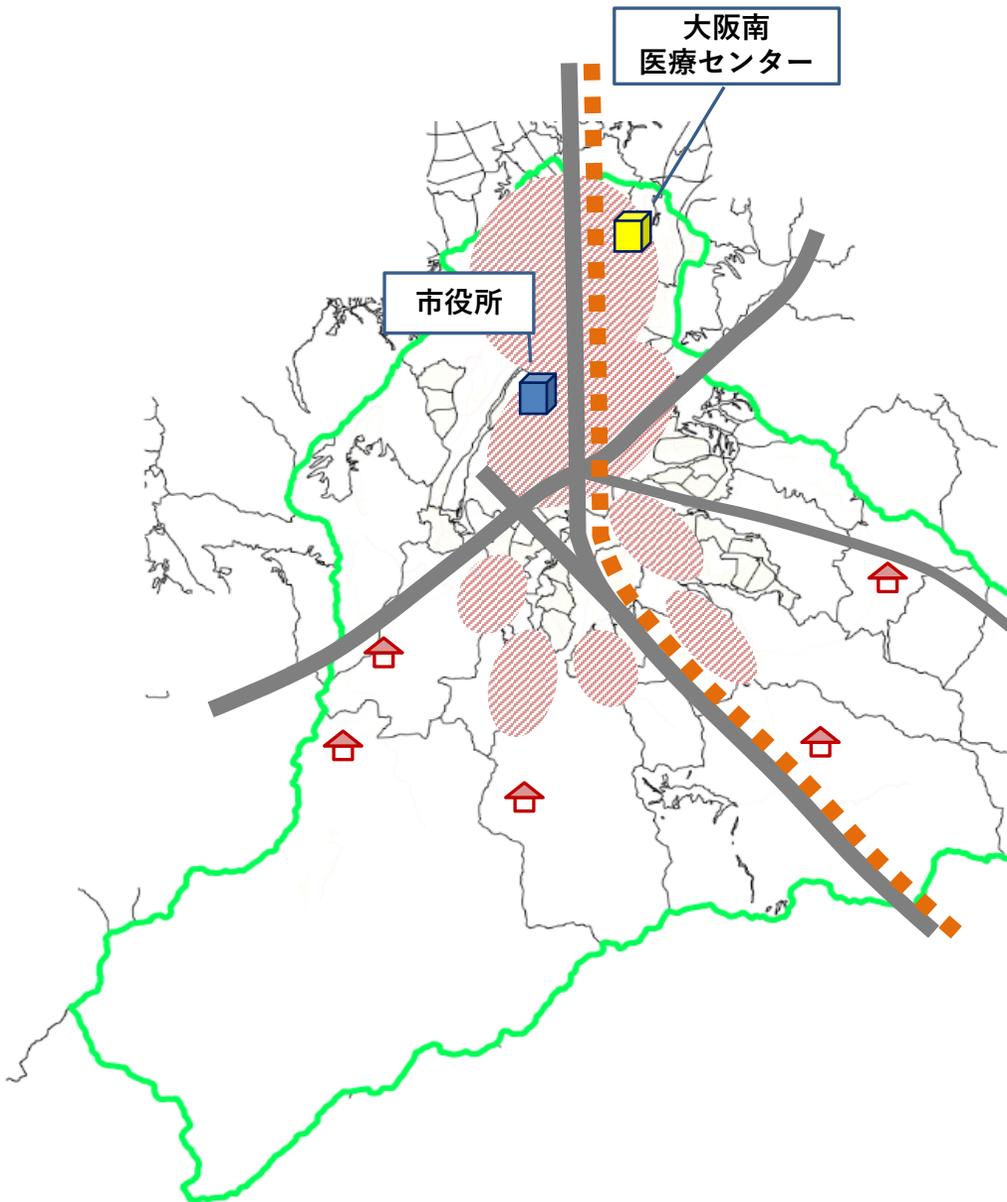
河内長野市の概要 ①



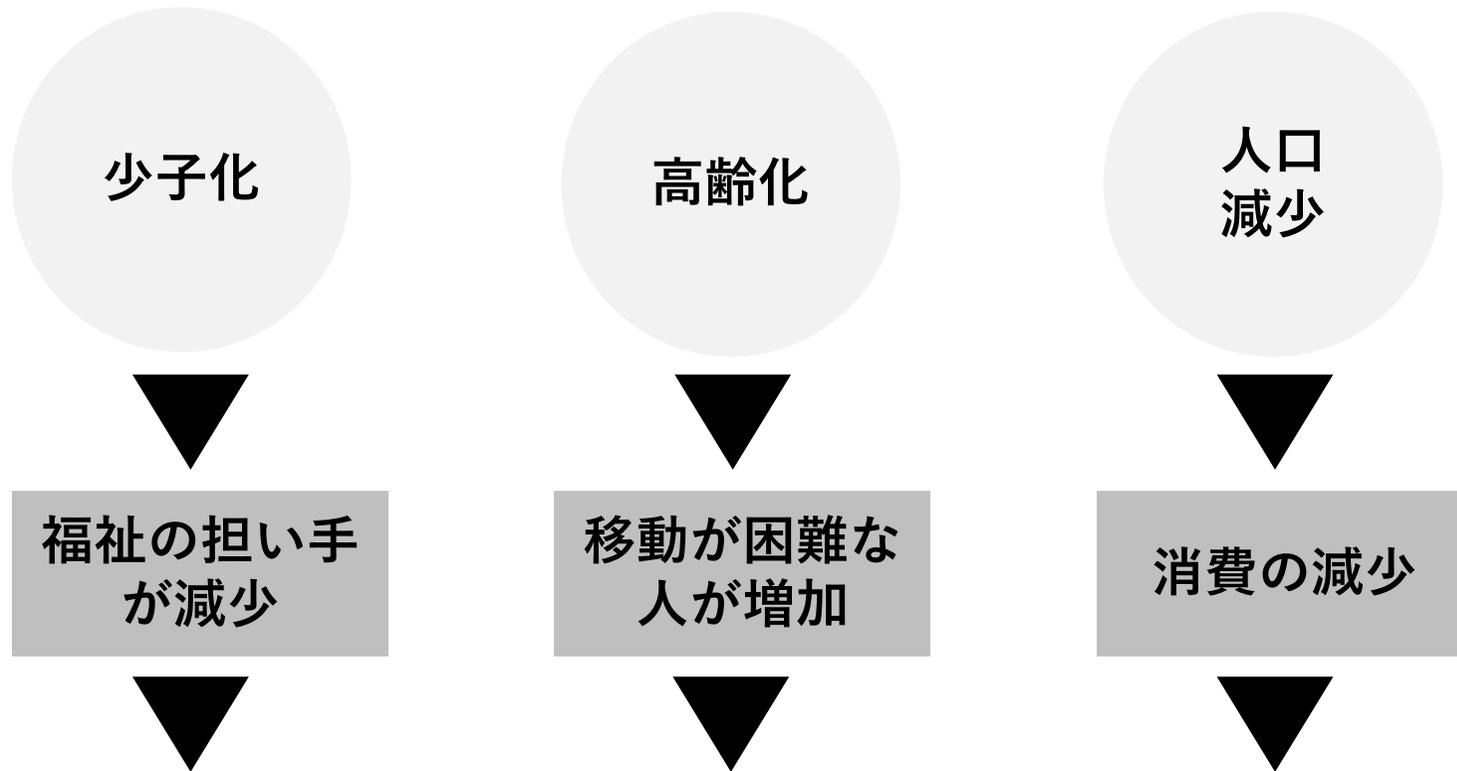
1. 大阪府の南東に位置
2. 奈良と和歌山に接している
3. 面積の7割が森林
4. 自然が豊かなベッドタウン
5. 人口は約97,000人

1

河内長野市の概要 ②



- (市北～中部)
 - ・ 幹線道路や駅周辺の市街地
- (市中～南部)
 - ・ 丘陵地の開発団地
- (主に市南部)
 - ・ 山間部に点在する集落
 - ・ 医療機関は市北部に集中



「少子化」「高齢化」「人口減少」は、今後も継続する見込みであり、併せて商業施設や医療機関なども減少していくと考えられる。

このような中、住民が自宅から当該施設まで移動することが困難となることが課題。

3

遠隔（オンライン）診療を選んだ経緯

河内長野市スーパーシティ構想

河内長野コイン
(地域通貨)

医療・健康
サービス

人の移動
サービス

物流・ドローン
サービス

安全・安心
サービス

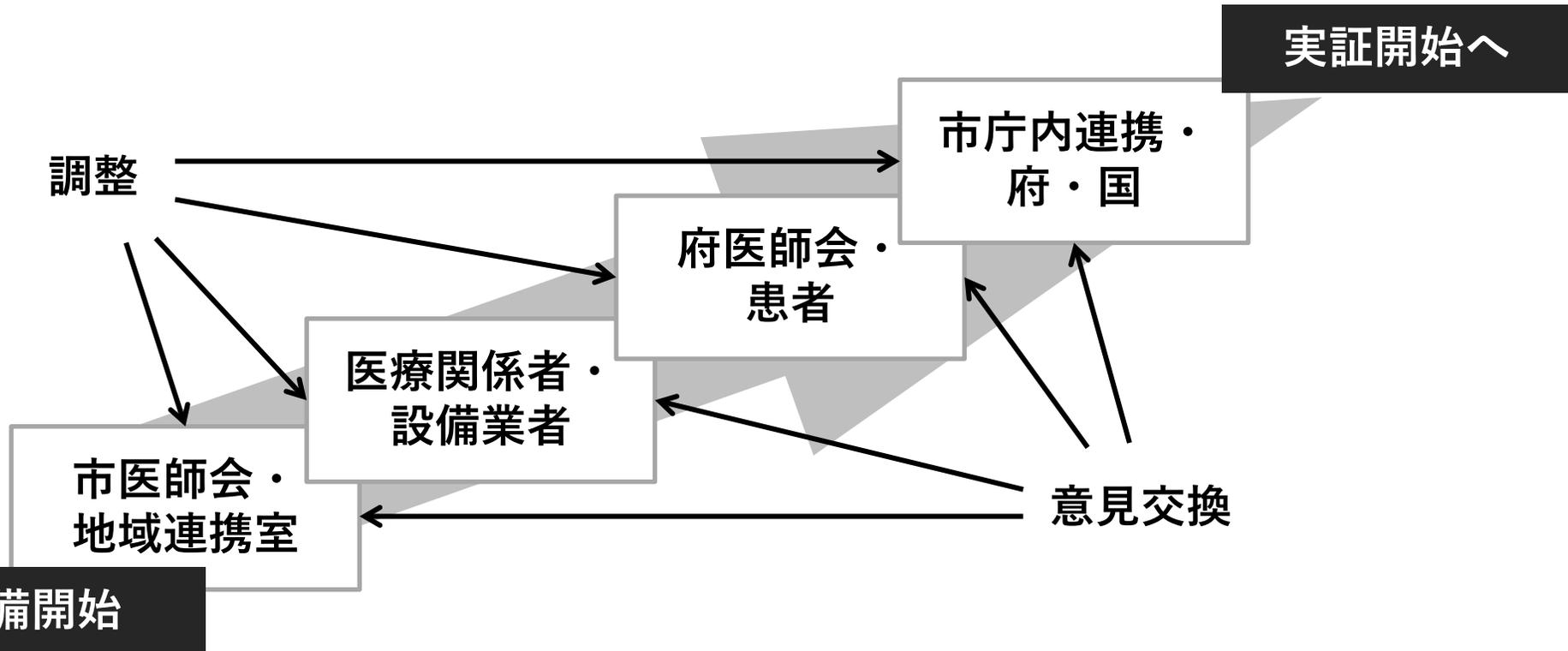
教育
サービス

6つのサービスのうち「医療・健康」から遠隔（オンライン）診療へ

4

実証開始までのプロセス

- ・ オンライン診療の関係者に対して、準備段階から調整
- ・ 丁寧な意見交換を心がけた



5

実証開始にあたってのポイント

調整内容

準備段階で関係者を巻き込む

会議への参画

複数回にわたる丁寧な説明

随時の意見交換

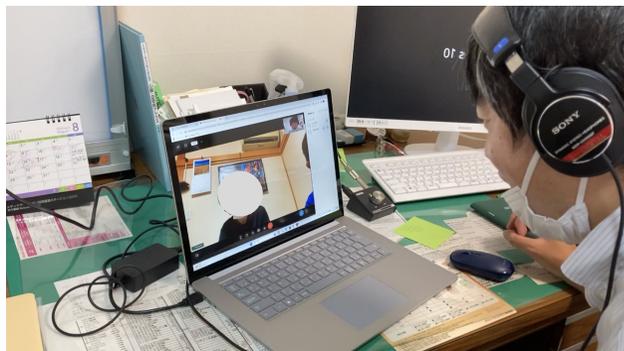
関係団体が積極的に関わってくれるようになった

6

実証開始 ①

- DtoPwithN形式での実証実験
- 医師は地域医院、看護師と患者は患者宅にて機器接続

地域医院



D (医師)

患者宅



P (患者) N (看護師)

接続

映像
音声

- 令和5年度 実績 (16回) • 令和6年度 実績 (24回)

6

実証開始 ②

- ・ 実証に使用する機器
- ・ 医師側、患者側それぞれセット有

医師側機器セット



患者側機器セット



動画

医師

良かった点

- ・現場に行かなくても会話等がある程度できた
- ・新たな機器の導入により、便利になる予感がした
- ・機器の取り扱いについて不便はない

改善点・課題

- ・スケジュール調整の部分が大変になる
- ・電子カルテと機器の連携

看護師

良かった点

- ・患者にとっては、通院の負担が軽減されると感じる
- ・機器の操作について、特に問題はない

改善点・課題

- ・患者が機器を操作することができるかどうか
- ・スケジュール調整が難しいのではないか

患者

良かった点

- ・オンラインで医師と話ができるのがよい
- ・オンラインの会話はスムーズにできる
- ・本格導入されれば、継続的に利用したい

改善点・課題

- ・特になし

その他(市PT・社協)

良かった点

- ・患者は、自宅なのでリラックスできる
- ・患者だけでなく、家族の付き添いなど負担が減る
- ・薬の残量をその場で確認できる

改善点・課題

- ・診療時間が長くなる傾向がある
- ・光や影の映り方で見えにくい場合もあった
- ・電波や機器のトラブルに関する対応方法

- ・ 実装に向けて問題・課題の解決
- ・ 環境整備と機運醸成

ご清聴ありがとうございました